

2026年度 福井厚生病院における看護職員負担軽減計画

	現 状	目 標	対 策		目標達成年次
外来	1 新棟移転後、平日・土曜日の午前は検査課で採血を実施しているが、土曜日の午後の採血は看護師が実施している。	採血業務の役割分担	検査課の勤務時間内は採血を検査課で実施する。点滴、注射と同時に採血する場合は、採血後検査課がスピッツ運搬を実施する。 ※時間外はほぼドライケムでの検査実施のため、検査課が呼び出されることは少ない。	臨床検査技師	一部実施済み (令和8年度も継続)
	2 外来内に看板等はあるが、受診者は高齢者が多く、検査の案内が必要となる。複数の診察場の介助についている看護師・看護補助者が患者の案内を行い、場所を離れる事で、次の患者の検査説明や、案内に待ち時間が生じている。	患者の待ち時間なく、円滑に外来受診ができる	検査の案内は、医事課窓口と協力して実施する 8:45～9:00の内視鏡案内を医事課窓口が実施する	医事課窓口	実施済み (令和8年度も継続)
	3 1人の看護要員が2～3診療科の介助をかけ持ちしている中、電話(外線・内線)も多く、診療の介助に支障をきたしている。	円滑に診療の介助ができる	午後からは医事課窓口が診察場1で電話対応を実施する。	医事課窓口	令和8年度
病棟	1 薬剤師の専門性・協力が必要となる業務(薬剤定数確認・内服セット・内服切れ・内服に関する医師への問い合わせの仲介・外来の内服副作用説明・薬品、内服搬送等)が多岐にわたり、看護師の負担が大きい。また、これらの業務負担が時間外にも繋がっている。	薬剤関連業務での看護師負担が軽減し、時間外が減少する	コストに繋がらない業務であっても、薬剤師の専門性が必要である業務は薬剤師が実施する。	薬剤師	一部実施済み (令和8年度も継続)
	2 診療報酬改定に伴い、入院時に医師が入院診療計画を説明し同意をえる。入院診療計画書は記載後お渡しするだけに変更となったが、従来のように担当職種が記載した後、看護師が患者・家族にお渡ししている。	看護師以外の職員が入院診療計画書をお渡しできる	入院診療計画書のお渡しするルールを決め、どの職種でも対応できる。	薬剤師 管理栄養士 リハビリ職員 MSW	令和8年度
	3 入院患者の採血は、臨床検査技師が前日に採血管を準備し、病棟看護師が採血を実施し、検体は検査室に運搬している。緊急採血、16時以降の当日採血オーダーは、採血管の準備、採血、運搬すべてを看護師が行っている。	採血業務の役割分担	病棟採血は、早朝採血(緊急)以外は、臨床検査技師が実施する。	臨床検査技師	一部実施済み (令和8年度も継続)
	4 スタッフコール・電話・面会者対応は他職種で対応することになっているが、現状は殆どが看護師が対応している。その度に、実施している業務を中断してしまう。また、看護師が対応できない場合は、スタッフコール・電話が鳴り続けていることもある。	スタッフコール・電話・面会者対応が他職種で素早く対応できる。 (安全・満足度の向上にも繋がる)	業務改善委員会・各部会で周知する。	薬剤師 管理栄養士 リハビリ職員 MSW	一部実施済み (令和8年度も継続)
共通	1 院内託児所が土曜日及び祝日のみの開所では復帰後勤務に支障があり、子育て中の勤務環境に改善の余地がある。	子育て中の看護職員に対する配慮	看護師が、子育てしながら勤務しやすい環境を整える。	保育士・事務	実施済み (令和8年度も継続)
	2 医療連携室の不在時間の入院案内、その他検査説明、入院時のオリエンテーション等の説明に時間を費やしている。	説明時間の短縮 業務の効率化	患者説明動画を作成し活用する。	医療DX	令和8年度